

秋田県警察の機能強化を考える会（第4回）開催結果

1 開催日時

平成29年1月31日（火）午後1時30分から午後4時までの間

2 開催場所

秋田市山王五丁目9番6号 ふきみ会館

3 検討課題

組織体制の在り方について

- (1) 組織体制の見直し（機能強化に向けた体制整備）
- (2) 合理的な施設整備（交番、駐在所の施設整備）

4 会議の概要

警察本部から、組織体制の見直し及び合理的な施設整備の必要性について説明後、委員による検討を行った。

5 検討結果の概要

- (1) 組織体制の見直し（機能強化に向けた体制整備）

ア 警察署の機能強化

- ・ 依然として厳しい治安情勢の中、人口分布の変化や道路交通網の発達による業務負担の不均衡、小規模警察署の非効率性という問題に対し、限りある人員を効率的に運用して対処するには、小規模警察署を隣接する警察署に統合し、初動体制、夜間体制、機動力及び事案対応力を強化すべき。
- ・ 人口減少は避けて通れない問題。今後の警察の在り方を考えた場合、人口、事件・事故の発生件数などを考慮して、警察官をどこに集中させ、どこを削るのか、選択と集中という観点で警察署の統廃合を検討すべき。
- ・ 小規模警察署と大規模警察署の統合という方向性で検討すべきだが、全ての小規模警察署を同じくくりで考えるべきではなく、人口や取扱い件数のほか、管轄する面積の規模も考慮すべき。例えば、管轄面積が広い仙北警察署と管轄面積の狭いにかほ警察署を同じく考えるべきではない。
- ・ 小規模警察署を統合する場合は、急に警察署を廃止するのではなく、段階的に警察機能を縮小すべき。また、警察署統廃合の必要性について、住民に丁寧に説明すべき。
- ・ 警察署を整備する際、統合した警察署はインターチェンジの近くに建てるなど、広域に移動する際の利便性など、機動力をいかにさせる場所に設置すべき。
- ・ 警察署を統合し、合理化したことで捻出できた人員は、人身安全関連事案や特殊詐欺といった対応が求められる部署に人員をシフトすべき。

イ 本部の機能強化

- ・ 脅威が増大するサイバー犯罪や国際テロに的確に対処するための組織体制を整備するなど、本部機能を強化すべき。
- ・ 特殊詐欺、人身安全関連事案等へしっかり対処できるよう、本部における警察署の支援体制を充実・強化すべき。例えば、県警察で計画中の機動捜査センターなどを横断的な事案対応に活用することも検討すべき。
- ・ 高齢化の進行により、今後、更に高齢者の取扱いが増加すると予想されることから、高齢者の安全対策を担う部署を設けることも検討すべき。

(2) 合理的な施設整備（交番・駐在所の施設整備）

- ・ 人口や事件・事故の減少、施設の老朽化が進む現況から、交番・駐在所の統廃合や配置場所の見直しを検討すべき。
- ・ 駐在所の統合や配置を見直す際は、人口、交通環境、業務量を考慮しながら、適切な場所を検討すべき。
- ・ 署境に関わらず、フレキシブルに対応できるような仕組みを構築するなど、お互いにカバーし合える体制を検討すべき。
- ・ 交番・駐在所の老朽化の実態を知り驚いたところ。老朽化する施設の対応として、県の施設等への間借りや空き家を活用した交番設置などを検討すべき。
- ・ 住民にとって、近くに交番・駐在所があれば安心感につながる。駐在所を廃止しなければならぬ地域には、北秋田警察署で行っている地域コミュニティ支援活動等を広く展開するなど、住民サービスを低下させないようにすべき。

(3) その他

- ・ 人口減少により統廃合を含めた組織体制の見直しは必要だと思うが、警察官を減らして良いという考え方には反対。高齢化への対応が増加、特殊詐欺やストーカー・DV事案などの犯罪は多発しているほか、広域的な捜査も必要な現況であり、安全安心を守る警察は、他機関の統廃合と同じく考えるべきではない。
- ・ 人口減少、少子高齢化が進行し、犯罪は減少するが高齢者や認知症への対応は増加する一方で、自動運転等技術の進歩による交通事故の減少が予想されるなど、今後は、警察の活動内容の変化に伴い、新しい警察の在り方が求められると思料。
- ・ 組織体制を見直す上で、犯罪捜査に関する警察の機能と行政サービスに関する警察の役割を区別して考えるべき。警察署は犯罪発生件数や初動対応の面で一番機能が発揮できる体制を考えるべきで、駐在所は民意として行政サービスとしての意識が高いので、警察署と駐在所の統廃合は別に考えるべき。
- ・ 組織体制の見直しのほかにも、無駄な業務の排除、事務作業のシステム化、先進技術の活用などによる業務の合理化、働き方の見直しを進めるべき。また、もっと、女性の能力を生かせる組織にすることについても、本部主体で検討すべき。